



第 60 号
松里中 P T A
発行者 中 村 賢 次
編集者 P T A 文化 部

一年を振り返って

P T A 会 長 中 村 賢 次



はじめに、日頃より地域の皆様には、本校の生徒に対し、温かいご支援・ご指導を頂き誠にありがとうございます。P T A を代表し御礼申し上げます。

今年度は、コロナ感染症のために今までにない異例づくめの一年間でした。入学式は万全の感染対策の中で、無事にかつ厳かに行われました。ほっとしたのもつかの間、始業式後は、一ヵ月以上も学校閉鎖となりました。入学したばかりの一年生やまた受験を控えた三年生は、さぞかし不安だったに違いありません。その間も、先生方は毎日生徒のために連絡を取って頂いたり、今までにない忙しい勤務状況だったと伺いました。修学旅行も延期となりました。その後中止とする学校が多い

中、松里中は先生方の様々な努力により、秋に無事催行することができました。天候にも恵まれ、秋の京都奈良は最高の思い出となったようです。今年も、生徒たちのスポーツ、文化活動、学業

などでの成果が素晴らしく、正面玄関にはたくさん輝かしいタイトルの表彰旗やトロフィーがこの一年の活躍を物語っています。改めて松里中学校の素晴らしさに感心いたしました。生徒の努力と先

生方のご指導の賜物だと、松中OBとしても大変誇りに思うとともに感謝の気持ちでいっぱいです。二学期は、松風祭の体育祭は観客制限があったものの天気にも恵まれ無事に開催でき、充実した祭典だったと思います。文化祭は日を置いて行われましたが、各学年とも短い期間に良く準備できたと思わせる素晴らしい内容でした。

強歩大会では、役員の皆様には、給水所や交通整理に様々な工夫をして頂き、また沿道では大勢の人に声援を頂き、選手は苦しい中でも大いに励まされ、全員が完走することができました。そして、最後の一人を全員で囲むように拍手をもって出迎えるこの大会は、素晴らしい松中伝統の強歩大会であり、今年も感動させて頂きました。

毎年恒例の有価物回収事業も、保護者の皆様や住民の皆様のご協力のおかげで、無事に例年を超えるほどの回収ができました。地域住民と学校をつなぐ松里ならではの小中学校の伝統事業であり、生徒たちにとっても社会貢献であり、環境問題を考える良い機会でもあり、収益事業という側面もあるの、面白い教育だなと生徒と作業しながら思いました。今後もぜひ続けて頂きたいと思います。

数年後、甲州市内の中学校の統廃合の計画があるとのこと。生徒数と社会情勢からはやむを得ないことだとは思いますが。このコロナ禍での松中行事を見るにつけても、小規模校でなければなしえなかった事もたくさんあったように思いますし、松里という田舎ならではの、のびのびした環境の中、全員が信頼し合い助け合える校風を持っている学校教育は、宝物だとさえ感じた一年間でした。伝統ある松里のこの学び舎への思いは、OBとしては尚更に強いものがあり、何とか存続をしてもらいたいと思います。

コロナ禍という前代未聞の災害の中、P T A 会長という大役を頂き、様々なことを学ぶことができました。次年度も、感染対策の中での模索が続くかと思いますが、引き続きP T A 活動が充実したものといたします。皆様のご指導とご協力・ご支援の程宜しくお願致します。そして、三年生の皆さん、この学び舎での出会いや経験した事を忘れずに、大きく羽ばたいてください。最後に、先生方をはじめ、保護者、地域の皆様には、一年間ご支援ご協力頂き、心より感謝申し上げます。本当に有難うございました。

「雑感」

校長 吉澤直樹

今年度のPTTA活動のまとめとして、会誌「扇山」が発刊できます。ことに、心より御礼申し上げます。これまで、中村PTA会長を始め役員の皆様、そして会員の皆様には大変お世話になりました。この一年はコロナで始まり、コロナで終わる一年間となってしまうそうです。PTTA活動につきましても中止せざるを得ないものが多かったわけですが、なんとか十二月の有価物回収は実施することができ、誠に感謝しております。お忙しい中、ご理解とご協力を頂きましたことに、この場を借りてお礼申し上げます。

さて、雑感ということで原稿の依頼を受けましたので、昨年の堰、「小屋敷堰」に引き続き、今度は道路「秩父往還」のことについて、文献等を参考にして書かせていただきます。ご存知のように松里中学校のすぐ西側の県道が「秩父往還」です。正確にいうといくつかあるルートの中の

一つです。秩父往還の起点は諸説ありますが、一般には山梨市の小原四つ角と言われています。ここは青梅街道と秩父街道（往還）との分岐点でもあります。ここから笛吹川沿いを北上し、松里地区を経由して、旧三富村へ入り、雁坂峠を越え、埼玉県の秩父に至る「甲州裏街道」と呼ばれた甲斐と秩父を結ぶ第一の道でありました。現代においても、平成十年に雁坂トンネルの開通により、山梨と埼玉を結ぶ動脈となっておりま

す。私も実際に甲州市と山梨市の境にある七日子神社前から、松里地内の秩父往還を自転車であらってみました。古道は県道とははなれ、一メートルほどの道を進み、左手に「延命地藏」を祀る小堂を見て、浅間神社を塚上に安置する「浅間塚」を迂回しながら進みます。「浅間塚」を過ぎると自然石の石垣があるなど、かつての街道の面影を髣髴させる景観



を残していました。土蔵・土塀や古い民家などもあり、また甲州市が設置した秩父往還の案内板（写真）などを確認しながら北上して行きました。途中「常泉寺」近くでは昨年書かせてもらった堰の一つ「井尻堰」（写真）のそばを通りながら進みました。また、松里小の前からは松尾神社のすぐ西側を北上していますが、江戸後期の村絵図により、小屋敷の道祖神の所で直角に左折し、県道よりも西側に走る道が主街道の如く描かれているとのことで



す。学校西側の変則的な三角地帯がその合流点とことです。そのまま県道を北上し、放光寺のわきの「小屋敷堰」沿いを通る別ルートと合流し、県営藤木発電所のわきを通り三富地内に入り、強歩大会で走ったコースと合流した地点まで行きました。

あらためて松里地区は甲州市の中でも歴史的遺産の宝庫であることを感じました。「堰」とともに「道路」は生活の根底を支えるものです。過去の人たちの偉大な功績をぜひ語りついでいきたいと思えます。

〈参考文献・山梨県歴史の道調査報告書第二集「秩父街道」（山梨県教育委員会発行、S59）〉

夢を叶える

PTA副会長 戸澤 恵 梨

「なんで勉強しなきゃいけないの？」多くの子供達が抱いた疑問だと思います。と同時にその答えに悩んでしまった親も少なからずいるでしょう。小中高さらには大学とよく

考えてみると、二十年近く勉強をして働いて結婚して子供ができて、勉強する意味をわが子に伝えていく。そのまた子供もあつという間に親になる。人は勉強と教育をずっと繰り返し大人になっていくのだと感じます。

学問の教育に大切なのは良い点を取る、取らせるだけではなく、もちろん点を取る事も大切ですが、私は「学びの質と環境」が大切だと感じます。質の高い環境を求めて海外へ移住し、グローバル化した社会に適応すべく、競争社会に生き残るための教育をする方もいます。財があれば選べる幅は広がりますが、なかなかそれを選ぶ事は難しいですよね。質も環境も揃った上で勉強ができて思い通りに進学できたとしたら夢に近づけると思えます。しかし、勉強

ができたとしても人として欠けているものがあつたのなら残念に思います。だからこそ私は家庭環境における教育の質も大切だと思います。人としてどうあるべきかを学ぶ場は家庭の教育だと、三人の子供を育ててきて感じました。学校生活でも家庭における教育はとても大切だと感じました。

「なんで勉強しなきゃいけないの？」それは夢を叶えるための近道だと思いません。その近道を作るのはもちろん子供自身ですが、その環境を整えるのは大人であり、教育する私たち親や学校や地域であると思います。人それぞれ各家庭で考え方は違い、生まれてくる環境も違うので求める質は違って当然ですが、子供がより高みを目指せるようにできる限り環境を整え、親も子も日々勉強しなくてはならないと思っています。



一年間を振り返って

PTA副会長 樋口 喜仁

私は、母校である松里中学校で、今年度PTA副会長としてこの一年間大役を務めさせていただきました。三十年前の在学中と今までで変わっていないところを見て大変懐かしく感じるとともに、新しく変化しているところや大人になった今、改めて母校の素晴らしいところを感じることができました。

一年間を振り返ってみると、今年は何よりもコロナ禍で例年とは違う行事の中止や縮小等の異例の年になりました。その一つの入学式では、在校生の参加はできず内容も大幅に縮小された式となりました。そして緊急事態宣言のため、四月十日から五月二十二日まで休校になってしまったこともあり、一年生は中学校生活に慣れるのも大変だったことと思います。

そんなPTA活動の中でも私が一番印象に残っている活動は、有価物回収でした。地域の皆様に協力の依頼、お願いや打ち合わせ等、三井教頭先生の細やかな計画や綿密な準備

には、私自身とても勉強になりました。こうした先生方の準備があることでスムーズに作業が行われていることを改めて感じる事ができました。

この一年間、微力ではありましたが、副会長として各行事に参加し協力できた事、そして貴重な体験をさせてもらえた事に大変感謝いたします。

最後になりましたが、吉澤校長先生をはじめとする諸先生方、保護者の皆様、地域の皆様、PTA役員の方々にご協力いただいたこと、心より感謝するとともに、お礼を申し上げます。ありがとうございます。

また、来年度は微力ながらPTA会長を務める予定です。来年度もコロナの影響により例年通りの行事が行われるのかが分からない状況ですが、最後の中学生生活での活動を親子で楽しむ一年でありたいと思えます。



専門部この一年

一年を振り返って

生活指導部長 天野 剛

四月に支部長との兼務で生活指導部長というPTA役員を引き受けてから、コロナの影響もありましたが、様々な学校行事に参加させていただきました。

今年度最後の行事として十二月上旬に有価物回収がありました。天候にも恵まれPTA役員や保護者の皆様のご協力で軽トラックの手配から始まりスムーズな回収が行われ、また、地域の方々の協力もあり沢山の新聞、雑誌、段ボールなどの有価物が集まりました。前年度からの反省をふまえ、今年度も段ボールの集積場所が混雑しないように牛乳パックの集積を旧体育館跡地側で行ったため、効率よく有価物の積み降ろしが出来て本当に良かったと思います。校庭での作業は生徒や先生方のおかげでスムーズに進める事が出来ました。

これまで出張が多くあまり学校の

行事に参加する事が出来ませんでした。支部長として微力ながら中学校最後の行事に協力出来た事を嬉しく思います。

最後になりましたが、諸先生方を始め、ご協力頂きました保護者の皆様には心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

一年を振り返り

体育部長 小倉 達也

今年度、体育部長を引き受け、身の引き締まる思いでのスタートでしたが、新型コロナウイルスが流行し、今までに経験のない、感染症対策を行いながら生活する一年となり、体育部長としての役割も果たせなかったように感じます。臨時休校、外出を控えた生活、活動の制限など、不安の多い毎日でしたが、今まで通りの学校生活が送れるよう、先生方の思いや配慮、学校行事が行えたこと、本当に有難く感謝しています。

安全を第一に考えた対策や配慮、準備等気を使いたい大変だったと思います。修学旅行、学園祭、強歩大会など、今でしか経験できないたくさんの思

い出や感動を子ども達は心に感じる事ができたと思います。改めて人とのつながりの有難さ、健康でいる大切さを痛感した一年でした。そして何より先生方の子ども達への思いが心に響き伝わったのではないかと思います。みんなで過ごした中学校生活が基盤となり、力強く、新たな一歩を踏み出してほしいです。

最後になりましたが、先生方をはじめPTA役員の皆様、保護者の皆様に心より感謝するとともに、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

感動した映画

文化部長 西川 直樹

私は映画が好きで、年間二〇〇本位見ます。テレビを録画したり、レンタル店から借りてきたり、これが私の趣味とも言えます。ある時息子から「お父さんは映画をよく観るけど、今までで一番感動した作品は何？」と聞かれた事がありました。いつもは激しいアクション物や戦争映画など、CGを使った真新しい作品ばかりを観ていた自分ですが、頭

に深く残っていたものが二つありました。邦画では「遙かなる山の呼び声」、洋画では「マディソン郡の橋」でした。

「遙かなる山の呼び声」は一九八〇年、私がちょうど中学三年生の時に公開され、数年後テレビでも放送されました。ラストの列車の中のシーンでは涙が出たのを憶えています。あれから三十数年経った昨年暮れ、いつものレンタル店でもまたこの映画が目にとまりもう一度観たところ、また最後のシーンで泣けてしまいました。本でも映画でも演劇でも感動する事は人にとって大事な事だと思えます。次の「マディソン郡の橋」は中学生のみなさんが結婚してから観ると参考になり感動する映画だと思えます。

最後になりますが、三年間勉強に部活、多数の学校行事について生徒のために尽力してくれた先生方にお礼申し上げます。



学年部この一年

一年を振り返って

一学年部長 飯島 美佐子

中学校の制服を着た我が子を見て、大人になったなあとしみじみ思いました。今年はコロナウイルスという未知のウイルスが流行し、入学式もどうなるのかとても不安だったことを思い出します。入学してすぐの休校。子供達も中学校という新しい生活が始まったのに、あまり実感がなかったのではないかと思います。学校に行くのを楽しみにしていたので、心が痛みました。

六月から、新しい生活にも慣れていき、部活動も始まった事で新しい仲間も増え、少しずつ成長していると思います。初めての松風祭では、一年生から三年生が団結してとても素晴らしい学園祭になったと思います。生徒達の笑顔がとても輝いていました。子供達も一年の間に心も体も成長し、本当に逞しくなりました。

最後になりましたが、子供達をい

つもあたたかく見守りご指導してくださる先生方、そして、一年間ご協力頂きました保護者の皆様ありがとうございました。初めての事も多く不安でしたが、先生方や保護者の方に助けて頂き一年間学年部長を務める事が出来ました。ありがとうございました。

一年を振り返って

二学年部長 飯島 志保

今までとは違った生活の中で始まった新学年。学校が始まったものの、友達と話すことも給食を食べることも部活動もできなくなり、子どもがよく「つまらない」と口にしていましたが、少しずつ日常生活が送れるようになると、子どもの姿がイキイキと見え、学校や友達の存在は大切なものだと感じました。感染対策を施しながらの松風祭では、練習日が少ないものの一人一人が精一杯力を出しきり、達成感を得た表情はとても素晴らしいものでした。

まだまだ規制がかかった生活が強いられる中、来年度からは松里中の顔として後輩たちを引っ張っていく

番です。それぞれが今以上に責任と自覚を持って行動しなければなりません。他人を思いやる気持ち、仲間と協力し大切にしようことを忘れずに成長していくって貰いたいと思います。

最後になりましたが、一年間ご協力頂きました保護者の皆様ありがとうございました。また、子ども達を励まし、少しでも多くの行事、普通の生活が送れるよう日々奮闘してくださった先生方にお礼を申し上げます。

最後の一年

三学年部長 榎原 美穂

去年の一月、新型コロナウイルスがこれほどに猛威をふるうことになるとは想像もできませんでした。

中国・武漢市の状況の報道を見る度に「大変そうだな」と対岸の火事程度に捉えていた方が多かっただろうと思います。それが年度の変わり目には緊急事態宣言の発令、オリンピック・パラリンピックの延期があったり、生活様式の大幅な変化を求められたりと、激動の一年と言っ

ても決して大げさではないと思います。

すべての行事、活動に「最後の」がつく三年生にとっても辛い最終学年となってしまいました。先生方のご協力によって修学旅行も無事に京都奈良へ行くことができ、とても良い思い出になったと思います。親としてとても感謝しております。

これから先もっと大きな壁にぶつかっても、この三年生ならきつと乗り越えられるなと思える程に三年間で成長しました。

松里中学校で過ごした三年間を忘れず、自分自身により磨きをかけ、それぞれの道へ大きな一歩を踏み出してほしいと思います。



卒業するわが子へ

これから辛い事苦しい事が沢山あると思います。でも結衣が選んだ道!!途中で諦める事なく夢を叶えるために頑張れ。結衣なら出来る。

天野 剛・嘉美

卒業おめでとう。春から高校生。環境もかわり新しい友達も出来ると思います。勉強も部活も今しか出来ない事を全力で頑張れ!

網野 浩二

三年間一緒に過ごした友達、お世話になった先生方、全ての出会い、経験は宝物です。その宝物を胸に、新たな一歩を進んで下さい。

雨宮 恵美

卒業おめでとう!!
笑顔で大切に!自分の周りにいる人に「感謝」できる人になって下さい。

雨宮 真・香理

心身ともに大きく成長したこの三年間。あなたに関わってくれた全て

の人に感謝して、日々前進してください。

雨宮 美幸

卒業おめでとう!あつという間の三年間でしたね。高校では自信を持って色々な事に挑戦し高校生活を満喫して下さい。

市井 利博

卒業おめでとう。今までのたくさんの思い出を大切に。これからの多くの出会いに期待して!!

榎原光二・美穂

この三年間、毎日コツコツ頑張りましたね!春から高校生になるけど、佳運なら大丈夫。将来の夢に向かってこれからも頑張ってください!

大橋 努

この三年間で、色々な経験をし、心身共に本当に大きく成長しましたね。高校に行っても温らしく頑張ってください。卒業おめでとう!

岡部光男・美香

卒業おめでとう!思い出深い三年間だったと思います。高校では環境が大きく変わるけど、満ちらしく過

ごせるよう、いつも応援しています。

岡部順一・美和

卒業おめでとう。勉強に部活動に、充実した三年間でしたね。これからも素晴らしい未来に向かって、明るく笑顔で歩んで下さい。

奥山信二・裕子

卒業おめでとう。今まで出逢った人への感謝の気持ちを忘れず、どんな時も、自分らしく前を向いて楽しんで挑戦して行ってね。

小倉達也・夏子

夢に向かってGO!!自信を持って新しい未来への扉を開けて。卒業おめでとう。あなたへ愛を込めてエールを送ります。母より

小澤 英里

卒業おめでとう。自分の夢を実現する為に、これからも一日一日を大切に過ごして、人生を思いっきり楽しんでください。

河野 和彦

卒業おめでとう。かけがえのない友達と出会い、楽しい思い出ができて良かったね。夢に向かって、次の

ステージに進んで下さい。

桐村 由紀子

今まで経験したことを糧として、これからも日々精進し、己を信じ周囲に流されることなく、挑戦し続ける自分でいて下さい。

窪田 龍二

卒業おめでとう。色々な事、たくさん頑張ったね。これからも日々楽しく、目標に向かって頑張ってください。いつも応援しています。

小林 江身子

卒業おめでとう。この三年間で大きく成長したね。高校でも思いやりの気持ちを持って翼らしく頑張ってください。いつも見守っています。

小細澤 里江子

卒業おめでとう。三年間で心身ともに大きく成長して、頼もしくなったね。自分に自信をもって、夢に向かって頑張ってください。

坂野喜教・恵美

楓へ。卒業おめでとう!何だかんだ文句を言いながらもやるべき事をちゃんとやる楓。その努力が報わ

れる日が必ず来るよ。

高石美保

幸斗、卒業おめでとう。
いつも支えてくれた先生、仲間
感謝の気持ちを忘れずにいて下さ
い。

田口英幸・あゆ美

卒業おめでとう。中学校生活で
色々な事を学んだね。まずは東京オ
リンピックの聖火ランナーとしてが
んばって下さい。

手塚 亮・直美

卒業おめでとう。中学校生活三年
間色々な事に精一杯取り組んでいた
りなはとでもすばらしかったです。
とても誇りに思います。

戸澤 恵梨

九年間の義務教育の旅が終わり、
また新しい旅が始まるね。これから
の旅が素敵な旅になるように応援し
ているよ。卒業おめでとう！

長塚 浩美

卒業おめでとう。たくさん
の努力とユーモアと、そして音楽で、人
生を光り輝かせて！これからもずっと

応援しています。

中村 かつ美

何事も一生懸命な姿にいつも感動
しています。周りの事も良く考えて
行動できて本当素晴らしいと思う。
これからも友香里らしくファイト！

中村賢次・泰子

和摩、卒業おめでとう。自分の考
えをしっかり持ち、いろいろな事
挑戦した和摩。努力を惜しまず、こ
れからもチャレンジしてね。

西川直樹・恵

結唯、卒業おめでとう。周りに気
遣いのできる結唯は本当に素晴らし
いです。これからも優しさと温かさを
持ち続けてください。

西川直樹・恵

卒業おめでとう。三年間弦楽部で
頑張ったね。これからも百喜の夢を
お父さんお母さんも応援している
よ。

深澤 正洋

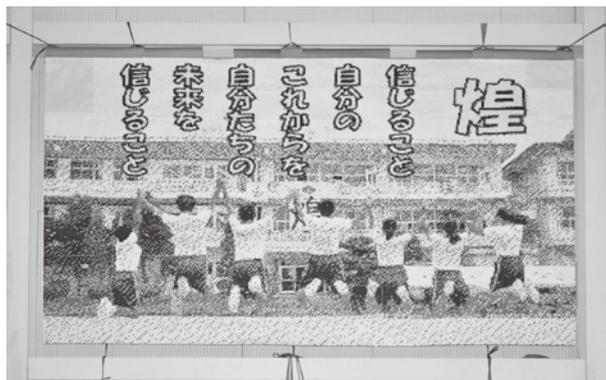
卒業おめでとう。大変な事もあつ
たけど楽しく思い出多い三年間でし
たね。高校でも自信を持って色々

チャレンジしてください。

古屋浩司・亜希子

卒業おめでとう。これからお友
達を思いやる心を持ち大切にして下
さい。そして自分のなりたい職業に
向かって全力で頑張ってね！

山下裕介・めぐみ



県大会三位(ソフトテニス)
県大会一位(陸上)
県総体優勝(水泳)
JOC(ハンドボール)
生徒会会長

網野 彩希
 奥山 莉奈
 西本 佑菜
 小林 杏里
 雨宮 琉希也
 榎原 慶二
 小細澤 翼
 田口 幸斗

挑戦は成長の第一歩

網野 彩希

毎日当たり前のように活動していた部活動もあつという間に終わってしまった。一年生の頃は、先輩の後を追いかけて、自分のことに精一杯の日々を送っていた。しかし、先輩方が卒業して自分たちが中心となり、私の中で何かが変わった。

自分たちでつくりあげるといふことは責任感が大切になってくる。自分が部長になり、やりたいことはたくさんあったが、思うようにはなかなかいかず、自分の力不足だとその時感じた。

このことをきっかけに自分を見つ

め直すことができた。責任感をもつことは大切だが、まず自分の思いを素直に伝え目標とするものは何か仲間と話し合うことが必要だと感じた。話し合いをもったことで互いの思いを知り、私自身もより責任感が増し、強い思いを抱くことができた。苦しいこと、悔しい思いをたくさん経験し、たくさん悩んだ。その分チームの思いや自分のプレーと真剣に向き合い自分を成長させることができた。そして中学生最後の大会では三位というすばらしい結果を残すことができた。あきらめず拾うこと、声を出し続けることなど基本的なことだがやり通すことはとても大切だと実感した。これらの経験を糧として今後も努力し続けたい。

最後の県大会を終えて

奥山 莉奈

私は八月に行われた県総体ソフトテニスの部に出場し、三位になることができました。中学校生活最後の大会だったので、悔いが残らないよう、今まで練習してきたことを全て発揮し、最善を尽くすことを心に決めて試合に臨みました。

大会前日までサーブスが安定せず次の日がとても心配でした。そんな時、部の仲間がアドバイスや指導をしてくれたおかげで、試合では安定したサーブスを打つことができ、ゲームを進めることができました。サーブス以外にもボレーやレシーブも積極的に動き、仲間のアドバイスを思い出しながらプレーをしたので準決勝まで駒を進めることができました。

準決勝では4対1で負けてしまいました。私の目標であった、「最後まで楽しみながらプレーすること」が達成できたので良い試合になったと思います。また、様々な人の技術も学べたので自分の成長に繋がる試合となりました。

私がここまで頑張れたのは、家族

や仲間が応援し、支え続けてくれたおかげです。今まで支えてきてくれた人たちに感謝すると共に、恩返しの意味も込めて、高校に進学しても今以上に頑張りたいと思います。

来年、関東大会に向けて

西本 佑菜

昨年、中学一年生の時に初めて陸上の関東大会に出場し、予選を突破することを目標に大会に臨みました。しかし、予選は突破できず敗退してしまいました。このとき関東のレベルの高さを実感しました。

関東大会に出場できるのは、上位三人までです。ですが、今年はコロナウイルスのため大会は中止になってしまいました。それでも総体に向けて日々練習を重ねました。大会で結果が出ず何度もつまずいてしまふところもありました。そんな時いつも家族や仲間がそばにいてくれ「佑菜なら大丈夫、いけるよ」「一位じゃなくてもいい」とはげましてくれました。今年の総体は自分の力を出しきることができベストタイム、そして一位をとることが出来ました。この一位は家族や仲間がいたか

らこそだと思えます。今まで私を支えてくれ、はげましてくれた人たちに感謝したいです。

次の最後の総体では今よりもっと成長した自分を出せるよう日々の練習をかかさず、自分に厳しく練習していこうと思います。そして今度こそ関東大会で上位にいくこめる、そんな選手になれるよう精一杯頑張っていきたいです。

目標を実現させるために

小林 杏里

今年、新型コロナウイルスの影響で大会がなくなりました。その中で開催された県総体では200m自由形で優勝することができた。夏の選抜合宿もあり、力をつけてからの大会は目標タイムとは違ったが、ベストを尽くすことができた。例年ならば、県総体の結果で決まる関東大会も、今年はなくなくなりました。クラブチームとして出場した全国大会では良いタイムを出せず、五位で終わってしまった。自分の実力不足を実感する大会となった。その後の県内開催の大会でも、良い成績を残すことができなかった。来年の全中

に出場することを明確な目標として、冬の泳ぎ込みを頑張った。フォーム改善、スピード練習、全てをこなせるように年末年始の選抜合宿も気を引き締めて泳いだ。自分の思うようなタイムが出せなかったこと、成績を残せなかったことにとっても悔しいと思った。その悔しさを自分の頑張りに変えたいと思う。

良いところは伸ばし、悪いところは直す。そのように力をつけて、身体も心も強くしていきたい。そして、自分の決めた目標を実現させるために一生懸命練習に励んでいきたい。

100mの成長と目標

雨宮 琉希也

私は今回の県選抜に選ばれたことで多くのことを学び経験し、自分を成長させることができた。私は最初、持久力があまりないため試合の最後まで走りることができずにいた。私はその課題と向き合い平日や休日の夕方に何度か走りこみをするので、だんだん試合を最後まで走りきってプレーできるようになっていった。またシュートの面では自分の苦手なポジションでもコーチ達に

技術を教えてもらうことでコツをつかみ以前よりも多く点が取れるようになっていった。しかし大会当日ではあまり試合に出ることができずに少し悔しい思いをした。県外のチームのメンバー達は皆、身長がとても高くプレートの技術もとても高かった。自分がフィールドに出たときは圧倒されそうになったが、自分の実力は出しきれたと思う。今回のこの思いを忘れず練習を今まで以上にたくさんして、高校に入ったらハンドボールの大会で茨城や栃木にリベンジができるようにがんばっていきたいと思う。ハンドボール経験の浅い私が山梨県の選抜に選ばれたこのよくなすばらしい経験ができたことに感謝して、この経験をこれから生かしていきたいと思います。

選抜を終えて

榎原 慶二

私は、今年度ハンドの山梨県選抜チームに選ばれ、関東大会に出場してきました。コロナの影響もあり、練習も大会も決して思う存分発揮できる環境ではありませんでしたが、大会に出場でき、この経験をさせて

いただいたことに深く感謝しています。他校の仲間と練習を重ねていくうちに、友情も深まり、山梨県の代表としての自覚が高まりました。

関東はチームのレベルも高く、選手の体格もよく、特に長身の選手には、戦う前から圧倒されてしまう自分がいました。そんな私たちに、監督から「相手の練習を見るな、自分たちのプレーに自信を持って、試合にのぞめ」と、檄を飛ばしてもらったことで、我に返ることができました。大会では、悔しい結果となってしまいましたが、選抜メンバーとして全力を尽くしたことで、多くのことを学べました。普段の生活の中でも、相手の意見や言葉、行動に対して自分自身の思いに反する判断をしようと思えます。そして、ハンドボールでも、さらに磨きをかけ、心身ともに強い自分になれるよう頑張っていこうと思います。

100mの活動を通して学んだこと

小細澤 翼

私は三年間欠かすことなく、部活

動に取り組み、大会優勝を目標に日々努力してきた。三年最後の大会はコロナが心配な中、なんとか開催されてとうれしかった。接戦の末、三位入賞ができてうれしかった。その後JOCに選ばれ、もう一度試合ができることをとても楽しみにしていた。走るのがあまり得意ではなかった僕にとってJOCの練習は本当に「苦」そのものだった。しかし、仲間と共に励まし合い、互いに改善できる点を指摘し合うことで、友情関係が生まれ、練習への意識が高まっていった。大会では惜しくも敗れてしまい、本当に悔しかった。

私はJOCの活動で大きく分けて二つのことを学んだ。一つ目は人間関係の大切さだ。自分一人だけで上手くなろうとするのではなく、仲間に積極的に声をかけ、意思疎通を図りながらすることが大切だと考えた。二つ目は多くの経験を積むことだ。自分は前まで誰かが動くのを待ってから行動していた。しかし、率先して声を出したり、プレーをしたりすると他の人よりも多くのことを学ぶことができる。だから僕はこの先もたくさん経験をし、キャリアを積み、自分に自信をつけていきたい。

飛躍

田口幸斗

約三ヶ月の休校から当たり前に学校があることの大切さを改めて感じた。休校が明けた時、仲間と生活できる嬉しさや、例年と同じ生徒会行事ができるか不安もあった。しかし、私達は松風祭・学習発表会などの行事や日常生活から一年間成長し続けてきた。特に松風祭で得たものはとても多く、系列活動には一人ひとりが自主的に動き、雰囲気も良かった。しかし、応援や行進に対する気持ちはとても低く、自分たちでつくりあげるのは松風祭は先生任せになっていた。私の目指す松風祭の思いを飾らない言葉で伝えた。みんなのやる気が出るように三年生が中心となって声をかけた。周りが盛り上がり、誰かの声かけで人の気持ちを変えることができると実感した。そして、一人ひとりの気持ちは変わり、全てのことにも本気になれた。スローガン「煌」のように一人ひとりが輝いた松風祭になった。たくさん仲間が支えてくれていたから、何事も乗り越えることができ、自分自身も成長できた。全校が一つ

になり、大きく飛躍できた忘れられない一年になった。この仲間と一年間走り抜けたのを誇りに思う。本当にみんなありがとう。

編集後記

文化部長 中村 かつ美

二〇二〇年は、私たちにかつて経験したことのない試練を与えた年でした。三月からの休校に始まり、各種行事・イベントは中止や延期となり、当然のように続いていく未来がすっぱりと霧に包まれてしまったかのような毎日でした。

しかし、この原稿を書いている今（十二月です）、振り返ってみると、松里中においては、体育祭も学習発表会も行うことができました。また、三年生は心配されていた修学旅行にも無事行くことができました（しかも某キャンペーンのおかげで保護者の懐にも大変ありがたい状態です）。そう、「コロナ禍なのに○○ができた」という思い出をたくさん作ることでできたのです。

これはひとえに校長先生をはじめ諸先生方の賢明なるご判断とたゆま

ぬ努力、そして生徒たちへの愛情の賜物であり、ただただ深く感謝をするばかりです。また、保護者の皆様方には、PTA活動にご協力を頂き改めて御礼申し上げます。

二〇二〇年度は我々の心に深く刻み込まれました。この大変な年に、大切な我が子が松里中の生徒として過ごせたことを心より幸せに思う今日この頃であります。

「松中魂よ、永遠なれ」

